



天竜川からの引水を供給する三方原用水の水路
 浜松市北区(県提供)

浜松市の三方原地を潤す国営三方原用水は、今年秋、1970年の造成以来初の大規模改良工事が始まる。農林水産省が事業主体となり、用水施設のほぼ全域にわたる延長39・2キロで水路や導水管、トンネルなどの補修と施設更新を行う。計画期間は2015～24年度の10年間で、国、県、市が総額195億円を投じる。

①三方原用水の使う目的を3つ書きましょう。

[]
 []
 []

②三方原用水の水は、どのくらいの面積に行きわたっているでしょうか。

[]

③三方原用水の水は、どこから得ているでしょうか。

[]

三方原用水 初の大改修



国と県
 浜松市
 10年で195億円投資

老朽化対策・耐震化、今秋着工

農業をはじめ、企業生産活動や市民生活を支える重要なインフラとして台地を潤す三方原用水。天竜川の秋葉ダムから取水し、農業、工業、上水道の3つの用水を担い、受益面積は3310haに上る。造成から45年が経

過し、施設更新は水漏れが目立つ施設の老朽化対策と耐震化に加えて、高度な施設園芸や畑作など営農形態の多変化にも対応する。地元では05年度の水利権更新作業に前後して全面改良への機運が高まり、足かけ10年に行

Q 国営三方原用水 三方原台地の水不足解消のため、1960～70年に国営かんがい排水事業として造成された。荒野だった同台地の生産活動は飛躍的に伸びた。農業利用に加えて、市の上水の約3割、工水は約90社に供給している。総延長42.8キロ。うち農水・工水・上水の3者が共有する導水幹線が21キロある。

別負担額は農水1億7300万円、工水16億9千万円、上水6億9千万円。最も大きい農水分では耐震対策負担などを勘案して国1億2300万円、県34億9千万円、市16億9千万円と概算した。本年度は1億9千万円を予算化し、農水単独区間の北部幹線(同市北区)の水路補修に取り掛かる。

わたり国、県、市、土地改良区などが調査や協議を重ねてきた。今回の改良工事が事業採択された経緯には、地権者約1万1500人のうち95%を超える同意が得られたことが大きい。同意のとりまとめは今年4～6月に行

2015年6月11日 夕刊

年 組 名前

(小学校中学年 社会・総合、中学校 社会)